道徳通信

ひだまり

令和５年１０月２日（月）
足立区立中川東小学校
道徳通信　第５号
校長　豊田　純子
道徳教育推進教師　前田　康介

道徳授業で行う『役割演技』

『役割演技』とは、お話の登場人物になり切って、即興的に演じる活動です。例えば､Aという考えとBという考えで葛藤している登場人物を役割演技したり、問題場面に直面した時の登場人物を役割演技したりします。

『役割演技』には、以下の効果があると考えられます。

- *登場人物の気持ちを実感することができる。*
- *自分の行為や感じ方、考え方を再認識することができる。*
- *様々な問題場面に直面した時に、望ましい行為を選択することができる。*
- *相手の立場に立って考え、行動することができるようになる。*
- *自分の考えを客観的な視点で捉えられるようになる。*

また､『役割演技』は、登場人物を演じている子だけでなく、演技を見ている子の思考も深めることができます。そのため、登場人物の気持ちを学級全体で考える際にも有効な活動です。

さらに､『役割演技』は社会心理学的な視点でみても、社会的な状況や役割に応じて行動や態度を変化させる力や他者とよりよい関係を構築する力など、相手と円滑にコミュニケーションを図る上で必要な力を育むことができると考えられています。

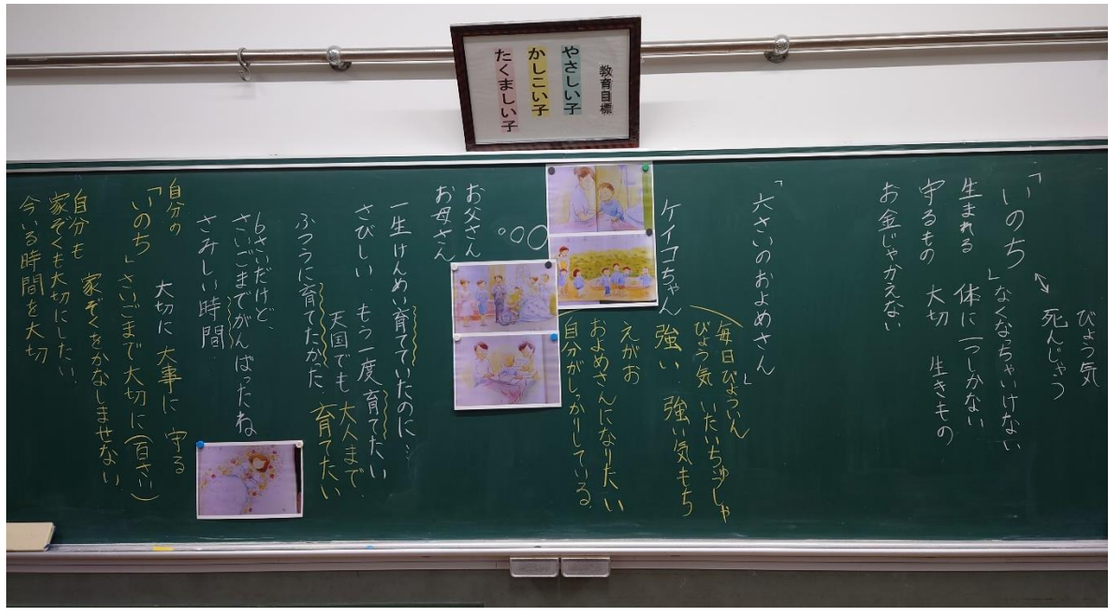
さぁ、こんな時・・・みなさんはどのように考えますか？

お話のあらすじ

主人公の小鳥は､病気で休んでいるりすさんのことを心配。ある日､小鳥はぐみの木になっている実をりすさんに届けに行きます。次の日も､小鳥はりすさんのことを思い､ぐみの実を届けに行きました。また次の日…外は激しい嵐です。小鳥はぐみの木に「りすさんのところへ行くのは､嵐が止んでからにしてください。」と言われてしまいます。しばらく待っても､嵐は止みそうにありません。小鳥はりすさんの体調が心配です。安全に飛ぶことができそうにない中､りすさんの所へ行くか行かないか…小鳥は葛藤します。

「行こうと考えている小鳥」と「行かないと考えている小鳥」になりきって、ぜひ役割演技をしてみてください。

◇3年生の道徳の時間◇



＜令和5年9月29日　笛木学級＞

教材名：『六さいのおよめさん』

主題名：せいいっぱい生きる　（授業のテーマを「主題名」と表します）

これは、小児がんと闘うケイコちゃんのお話です。ケイコちゃんは注射の痛みや、髪が抜けるなどの辛い治療に耐えながら懸命に生きています。そしてお嫁さんに憧れながら、天国へと旅立ちました。両親は深い悲しみを感じていましたが、ケイコちゃんが残してくれた大切なものを伝えていくために、「いのちの授業」を始めたという内容です。

授業ではケイコちゃんに対してどう思うか考え、しっかり自分自身をもっていることや、強い気持ちがあることを感じ取りました。また、両親の気持ちを考え、ケイコちゃんを大切に育ててきたこと、育て続けたい思い、寂しい気持ちを想像しました。そして自身についても考え、自分の生命や家族、今いる時間を大切にしていこうと思う気持ちを高めていました。

日々の中で生命について考える時間は少ないかもしれません。生命は有限であることや、自分たちが多くの人に守られて生きていることなど、生命の大切さについて考えたり感じたりする時間を今後も大切にしていきたいです。